

平成29年11月30日
(2017年)

保護者の皆さまへ

吹田市立千里第一小学校
校長 宮前 桂子

平成29年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「平成29年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月中旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

◎国語A（『知識』に関する問題）

- ・読むことの領域は全国値とほぼ同じである。
- ・全ての設問で無解答率が全国値よりも高い。
- ・漢字の読みは、全国値とほぼ同じである。

◎国語B（『知識の活用』に関する問題）

- ・目的に応じてかくことは全国値とほぼ同じである。
- ・理由を明確にして自分の考えを書くは全国値を下回っている。
- ・記述式の無解答率は全国値とほぼ同じである。

●国語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

話すこと・聞くこと

- ・「目的や意図に応じ、適切な言葉遣いで話す」は、全国値をやや下回っている。
- ・「考えの共通点や相違点を整理しながら進行に沿って話し合う」については、課題がある。

書くこと

- ・「目的や意図に応じ、引用して書く」は全国値とほぼ同じである。

- ・「場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを書く」ことについては課題がある。

読むこと

- ・「俳句の情景を捉える」は全国値とほぼ同じである。
- ・「理由を明確にして自分の考えをまとめる」は全国値を下回っている。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・「漢字を正しく読む」は全国値とほぼ同じである。
- ・「ことわざを自分の表現に用いる」は全国値を下回っている。

●国語科における成果と今後の改善点について

- 漢字やローマ字の学習では、日常の学習の積み重ねが成果として出ていると考えられます。授業における丁寧な指導のみならず、朝の学習や家庭学習で行っている反復学習等を今後も継続して取り組んでいきます。
- 話すこと・聞くことについては、話の構成を工夫してそれを活用することを苦手としていることから、説明文や物語の文の決まりを授業の初めに必ずしっかりおさえる時間を設けることで、文全体として捉える力をつけていきます。
- 書くことについては、必要な文章を抜粋することができていないので、書くことの前に問題で聞かれていることを理解するところから改善していきます。「こそあど」言葉を活用し、聞かれていることを押さえ、書く力を育てていきます。
- 読むことについては、自分や登場人物の心情を捉えられるように、挿絵に自分の経験を重ねさせ、自分の考えや思いをまとめられるようにしていきます。

●算数《概要》

◎算数A（『知識』に関する問題）

- ・全体の正答率は全国値をやや下回っている。
- ・「量と測定」は全国値をやや上回っている。
- ・全体的に無解答率は全国値よりも低い。

◎算数B（『活用』に関する問題）

- ・全体の正答率は全国値を下回っている。
- ・「示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを、図に表現することができる」は全国値をやや上回っている。
- ・全体的に無解答率は全国値よりも低い。

数と計算

- ・「小数と整数の加法の計算をすることができる」は全国値を上回っている。

- る。
- ・「足し算とかけ算の混合した整数と小数の計算をすること」や「最小公倍数を求めること」に課題がある。

量と測定

- ・「平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係を理解している」は全国値をやや上回っている。
- ・「仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述できる」は全国値を下回っている。

図形

- ・「立方体の面と面の位置関係を理解している」は全国値をやや下回っている。
- ・「身近な物に置き換えた基準量と割合を基に比較量を判断し、その判断の理由を記述できる」は全国値を下回っている。

数量関係

- ・「具体的な問題場面において、かけ算で表すことができる二つの数量の関係を理解している」は全国値とほぼ同じである。
- ・「示された式の中の数の意味を表と関連付けながら正しく解釈し、それを記述できる」は全国値を下回っている。

●算数科における成果と今後の改善点について

- 基本的な四則計算に対する理解については、定着してきていると考えられます。
- 習熟度別指導を生かして、単元の中の時間配分を考え、個に応じた指導を心がけます。
- 日常生活の場面に戻って振り返り、児童により身近なものを割合や表、グラフなどを活用して考察することで、算数が役立っていることを実感できるようにしていきます。
- 記述力を向上するため、すでに学習したことを基に、見通しをもって考えたことを絵や図、数直線、式、言葉で表す活動を増やします。ノートに考えを書いた後、交流し合うことで考えを深める活動を全教育活動の中で目指します。
- グラフと表を比べたり、2つの表を比べたりする数量関係の読み取りや、図形の学習に関しては具体物を用いた指導を行っていきます。
- 担任や少人数指導担当者による個別指導を継続していきます。
- 解き方がわからないときでも諦めずに取り組めるよう、これからも基礎・基本の定着を目指し、習熟度別指導、朝の学習、反復学習等に取り組んでいきます。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

- ・「自分に良いところがある」「自分の考えや意見を発表することができる」「友だちの話や意見を最後まで聞くことができる」は、全国値を上回っている。
- ・「最後までやり遂げてうれしかった」「失敗を恐れず挑戦する」は全国値とほぼ同じである。

- ・全国の傾向と同じく、本校でも朝食をとっていない児童が多い。
- ・「家で授業の予習をしている」は全国値を下回っている。
- ・学校に行くのは楽しいと思う児童は、全国値を上回っている。
- ・学校のきまりを守っている児童は、全国値を上回っている。
- ・「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」に、肯定的に答えた児童は、全国値を下回っている。

【教科・学習について】

- ・算数の学習では、解き方のわからない問題でもあきらめずにいろいろな方法を考える児童は、全国値をやや上回っている。
- ・学級の友だちとの間で話し合う活動をよく行っていたと思う児童は、全国値とほぼ同じである。
- ・学級やグループの中で課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う児童は、全国値より下回っている。
- ・「学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして、意見をまとめている」に、肯定的に答えた児童は、全国値より下回っている。
- ・算数で学習したことを普段の生活で活用できないか考える児童は全国値を下回っている。
- ・「読書をしている」児童は、全国値よりも上回っている。
- ・学校の宿題はするが、予習復習をしたり、興味のあることについて調べたりする児童は全国値を下回っている。。
- ・「算数の勉強は好きですか」については、全国値を上回っている。
- ・ノートに学習のめあてとまとめを書いていた児童は全国値をやや上回っている。

3 今後の取り組み

教科に関する結果を踏まえ、本校では、児童にとって「わかりやすい授業」「楽しい授業」をめざして、講師を招聘し研究をすすめてまいります。授業の初めにめあてを明確に示し、授業の終わりに必ず振り返りをします。振り返りをすることで、書く力の向上に努めます。また、見通しをたて、考えを伝え合う活動を取り入れながら、授業を通してわかる喜びを味わい、自己肯定感・自尊感情を高める指導を行います。

さらに、これまでも進めてきました少人数指導やICTを効果的に取り入れるなどの指導方法の工夫・改善にも取り組みます。

引き続き、家庭や地域の協力を得て、自分の良さを知り、最後まであきらめず、他人を尊重する気持ちや態度を育めるような学校づくりをめざしてまいります。よろしく願いいたします。